安全施工管理体制を強化

赤門ウイレックス

本部近くに教育施設新設

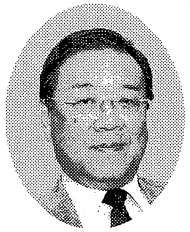
総合衛生管理サービスを展開する赤門ウイレックス（本部長久手市戸田谷、山田幸司社長、電話05 61・62・6331）は、安全施工管理体制を強化する。本部に近隣して「安全環境センター」をこのほど新設。作業現場同様の設備などを設け、実践研修を導入して作業前の「送り出し教育」を充実させる狙い。事故防止と正確な作業で顧客の信頼を高め、収益拡大につなげる方針だ。

（長久手・柴田芳尚）

新設した「安全環境センター」（長久手市戸田谷）

同センターは長久手市戸田谷の土地・建物を取得した。敷地面積は約400平方㍍。建物は3階建てで、延べ床面積は約240平方㍍。

1階は安全実習所で高所や天井裏などの作業現場を再現した。配電盤など電気系統の設備を設置し、転落や感電などの事故防止に向けた技術訓練を行う。2階は本部から安全環境部が移設し、3階は会議室兼研修室。投資額は約1億2千万円。



山田幸司社長

同社は空調ダクトのクリーニングや排水管洗浄、機械設備の衛生管理、防カビ、殺虫・殺菌消毒の施工など、建物や工場向けに幅広い衛生管理業務を手がける。食品メーカーを主力に自動車部品、医薬品、化粧品メーカーなどの業種も深耕している。

安全施工管理では、社員約170人（パート含む）のうち現場作業従事者約120人を対象に、従来から定期的に社内で作業前の送り出し教育を行っている。顧客先の大手メーカーで安全管理基準が厳しくなることなどに対応して、2016年10月に安全環境部を新設。さらに安全環境センターを設け、従来の講習に加えて実践研修を実施する。

また、16年10月に佐賀県に九州出張所（今年10月から九州事業所に改称予定）、10月1日には沖縄県に沖縄出張所を開設するなど、国内20カ所に拠点網が拡大。人員もこの5年間で新卒採用者16人、2017年9月期も新卒5人、中途採用者12人を採用しており、同センターは業務拡大に伴う教育体制の充実を担う狙いもある。

山田社長は「人員増加で業容拡大を進めているが、安全面は切り離せない。経営方針の『安全はすべてに優先する』のもと、安全環境センターを重要施設に位置付け、社員の意識を高めて顧客の信頼を得たい」と話す。

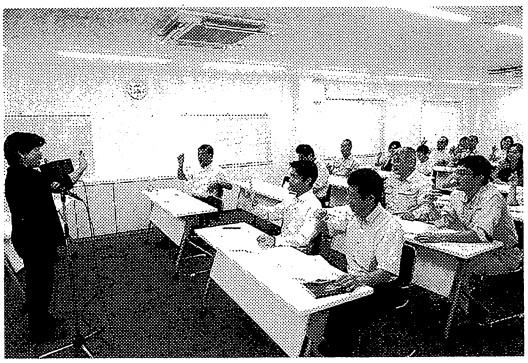
同社の17年9月期の売上高は前期比約3億円増の約48億円の見込み。来期は安全面や技術力の向上で顧客を拡大し、50億円達成を目指す。

手話講習会を開催

聴覚障害者採用で環境づくり

【長久手】赤門ウイレックスは聴覚障害者を10月に採用する。社員同士のコミュニケーションを高めてもらおうとこのほど、長久手市の本部で「手話講習会」を開催した。

同社が障害者を採用するのは初めて。国の障害者雇用率制度に準じて60歳の男性をパート社員として雇用。総務部に配属する。男性は先天性聴覚障害を持つが、これまでに他の企業で長く総務関連業務に携わってきたという。



社員が参加して行われた「手話講習会」の模様

手話講習会は、入社を前に円滑に業務にあたってもらう環境づくりとして、社員に手話を覚えてもらおうと開いた。本部に勤務する社員約20人が参加。専門の講師を招き、あいさつや基本的な会話の内容を学んだ。

同社では今後、手話を習得している女性社員を講師に、講習会を継続していく方針。

中村正司総務部長は「気持ちよく働いてもらうために、1人でも多くの社員が手話を覚えてもらえるように勉強を継続する」と話している。